

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 丸山 奈穂	(学部) 地域政策学部
<p>1 研究</p> <p>➤ 調査データの収集</p> <p>外国人街の観光地化に関する基礎的研究(平成12年度基盤研究(C))のためのデータを収集した。この研究は、群馬県大泉町および大阪市生野区を例として、外国人街の観光地化が、日本人住民と外国人住民の相互理解や外国人住民のエンパワーメントといった地域問題の解決につながるかを探ることにある。そのため、今年度は昨年度に実施したインタビュー調査をもとにアンケート用紙を作成し、大泉町でアンケート調査を実施した。大泉町を約50の地域に分け、それぞれのエリアから無作為に出発地点を抽出し、一軒置きにアンケート票の記入を依頼した。結果、日本人420人およびブラジル人99人からデータを収集した。また、大阪生野区では昨年度に引き続き、住民へのインタビューを主に行った。また、アンケート調査も一度行い、来年度にむけての情報収集ができた。調査の一部を、12月に行われた日本観光研究学会の全国大会にて発表をした。</p> <p>➤ 論文の執筆、投稿</p> <p>博士論文に基づいて、中国系アメリカ人が中国を観光者として訪れることに関する論文を加筆修正し、投稿した。ルーツ観光は、過去の研究では「移民やその子孫が、母国との精神的なつながりを求めて祖国を訪れるもの」と位置付けられ、旅行者全員が「巡礼のような」経験を求めているように論じられることが多かったが、本論文では、ルーツ観光者の動機や目的の多様性について注目した。</p> <p>2 教育</p> <p>➤ ディスカッションおよびプレゼンテーションの実施</p> <p>各講義では毎回グループディスカッションを行い、学生が考え発言する能力を高めることができた。自ら挙手し発言する学生も増えてきた。また、グループでのプレゼンテーションを行い、与えられた課題のなかで、リサーチをする能力を付けた。また、グループ内でのコミュニケーションをとることを最初に促し、メンバー評価も行ったので、それぞれが他人任せではなく積極的に課題に取り組む姿勢がみられた。</p> <p>➤ グループ研究の実施</p> <p>演習Iでは、グループ研究に取り組んだ。ゼミを二つのグループにわけ、研究テーマの設定から、研究計画書の執筆、調査関係機関への協力依頼、調査の実施、報告書の完成までを学生が主体的に進めている。調査は、高崎駅のアンテナショップおよび赤城クローネンベルクでそれぞれ行った。</p> <p>➤ サマリーシートの作成</p> <p>演習IおよびIIでは、読んだ文献の要点をまとめ、さらに批評を記入したサマリーシートを毎回作成提出させた。これにより、文献を批判的に読む姿勢、またディスカッションに準備をして臨む姿勢の向上がみられた。</p>	

➤ 来年度への抱負

来年度は、群馬県および大阪での外国人街の観光地化に関する調査をさらに進めていく。具体的には、大泉町では、ブラジル人家庭からさらに 100 枚のアンケート票を収集することを目標とする。また、大阪生野区でも同様の調査を約 500 件行うことを目標とする。分析執筆を行い、論文としてまとめる。また、今年度はあまり進まなかったボランティア観光に関する研究も進めたい。

教育面では、プレゼンテーションの技術を向上させることを目標とする。また、ゼミのグループ研究においては、調査結果を報告書にまとめ、調査に協力いただいた関係機関に送付する。また、観光を通じた地域づくりを実践的に学び、4年次の卒論研究への準備をするために、今年度もゼミ3年生を対象にグループ研究を行いたい。

2 その他の事項

- 教員免許状更新講習講師：「観光と異文化理解」（2013年8月）
- ラジオ高崎ラジオゼミナール出演：「観光と文化」（2013年11月）というテーマで、観光と地域の文化がどう関わっているか、また観光現象のメカニズムなどを講じた。
- 群馬県内で調査を行う際には、可能な限り学生をアルバイトとして雇用し、調査の仕方などを実際に参加することで学べるようにした。